

トカラ列島宝島における 2015 年および 2016 年 11 月の アサギマダラの確認記録

徳 田 誠

(佐賀市本庄町 1 佐賀大学農学部：〒840-8502)

南西諸島は、渡りをするチョウとして知られるアサギマダラ（タテハチョウ科マダラチョウ亜科）の長距離移動ルートを解明する上で重要な地域であり、屋久島（久保田，2016 など）や喜界島（福島，2004 など）では以前から精力的な調査が実施されているが、トカラ列島における記録は限定されている（大原，2013）。トカラ列島の宝島においては、過去に廣森（2001）により，1999 年から 2001 年にかけてのマーキング調査の結果が報告されている他，中峯・守山（2010）や金井・守山（2014）により，10 月に多数の個体が確認されている。筆者は 2015 年と 2016 年の 11 月に虫こぶ（虫えい）形成昆虫相の調査のため宝島を訪れた際（徳田，2017），多数のアサギマダラの成虫を目撃し，個体数を記録したのでここに報告する。

2015 年は，11 月 15 日にイマキラ岳の登山道を徒歩で移動しながら，目撃したアサギマダラの個体数を記録した。重複を避けるため，調査は山頂にかけての往路（13：20～14：50 の 90 分間）のみ実施した。2016 年は，11 月 17 日に女神山の周囲および，イマキラ岳南西側の一週道路を周回しながら，13：50～16：20 の 150 分間実施した。



図 1. ツワブキを吸蜜中のアサギマダラ
（宝島，2015 年 11 月 15 日）

2015 年の調査では，142 頭が確認され，このうちツワブキの花を吸蜜中のもの（図 1）が 121 頭（ツワブキの花 78 房を調査し，平均 1.6 頭〔最大 14 頭〕を確認），サキシマフヨウの花を吸蜜中のものが 6 頭，その他の植物上で確認されたものが 4 頭，飛翔中のものが 11 頭であった。一方，2016 年の調査時には，前年と同様にツワブキの花も見られたが，確認されたのはほぼすべてが飛翔中の個体で，シロバナセンダングサ（コシロノセンダングサ）を吸蜜中のもの数頭を含め，確認個体数は合計 15 頭であった。

ほぼ同時期に宝島を訪問したにも関わらず，確認された個体数は両年で大きく異なり，2015 年が 1 時間あたり 94.7 頭，2016 年が 6.0 頭であった。なお，両年ともマーキングが施された個体は確認されなかった。また，上述のように筆者の主目的は虫こぶ（虫えい）形成昆虫相の調査であったため，今回の調査ではアサギマダラの個体数の記録のみに留め，捕獲やマーキングはしなかった。

廣森（2001）は，1999 年 11 月 20～24 日に島全体のビワ畑でビワの花を集団吸蜜している個体を多く確認し，260 頭にマーキング，2000 年 12 月 4～6 日に訪問した際にはビワの花は盛りを過ぎており，ツワブキの花で多く吸蜜しており，島全体の一週道路沿いで 530 頭にマーキングしたと記録している。

今回の調査では，ビワの開花状況については確認していないこと，および，2015 年と 2016 年とで調査ルートが異なっていたことから，主に利用していた吸蜜植物が年により異なっていた可能性や，調査ルート自体の違いが確認個体数に影響した可能性も否定できないが，廣森（2001）によれば，いずれの年も一週道路を含め，島全体で多数のアサギマダラが確認されていることや，2016 年には他地域でもアサギマダラの個体数が顕著に少な

かった事例が報告されている(久保田, 2016; 大原・山田, 2017) ことから, 宝島においても, 2015 年よりも 2016 年の方がアサギマダラの飛来・生息個体数が少なかった可能性が高いと考えられる。

上述のように, 宝島では過去にも多数のアサギマダラが確認されており, 同島を含めたトカラ列島において詳細なマーキング調査が実施されれば, 本種の移動ルートの解明に貢献すると考えられる。とくに, 屋久島や喜界島, あるいは大東諸島を経由するルートと宝島を含むトカラ列島がどのような関係になっているのかは興味深い課題のように思われる。

謝辞

本調査は, JSPS 科研費 15K06937 (代表者: 小島弘昭) による助成, および, 鹿児島県十島村役場による許可を受けて実施された。

[引用文献]

福島誠 (2004) 喜界島の春のアサギマダラ.
昆虫と自然, 39 (5): 13-16.

廣森敏昭 (2001) 1999 年～2001 年宝島でのアサギマダラのわたりに関する調査. 鹿児島県立博物館研究報告 (20): 67-69.

金井賢一・守山泰司 (2014) 2012 年 4 月および 10 月のトカラ列島宝島の昆虫記録. 鹿児島県立博物館研究報告 (33): 39-44.

久保田義則 (2016) 屋久島におけるアサギマダラのマーキング調査(19) -蝶の消えた 2016 年春季-. Satsuma (157): 49-56.

中峯浩司・守山泰司 (2010) 2009 年秋トカラ列島口之島・諏訪之瀬島・宝島のチョウ類. 鹿児島県立博物館研究報告 (29): 55-64.

大原賢二 (2013) 九州のアサギマダラの移動記録について -鹿児島県の調査ポイントは-. Satsuma (150): 41-47.

大原賢二・山田量崇 (2017) アサギマダラの移動に関する徳島県の記録 (2016 年). 徳島県立博物館研究報告 (27): 17-36.

徳田誠 (2017) トカラ列島の小宝島と宝島で確認された虫えい. 昆虫 (ニューシリーズ) 20: 印刷中.

(とくだ まこと)

ヒメウラナミジャノメの冬の記録

渋谷 誠

(薩摩川内市久見崎 456 : 〒895-0132)

2016 年の年末から 2017 年新年にかけて, ヒメウラナミジャノメが見られた。

2016 年 12 月 25 日 1♂ (図 1)

2017 年 1 月 2 日 1♂ (図 2)

採集地はいずれも薩摩川内市久見崎の自宅庭である。



図 1. ヒメウラナミジャノメ ♀
(2016 年 12 月 25 日採集)



図 2. ヒメウラナミジャノメ ♂
(2017 年 1 月 2 日採集)

(しぶや まこと)